

研修会報告

「ブロックチェーンと今後の応用」 9月18日(金)

講演:松尾真一郎博士 ジョージタウン大学 Cyber SMART 研究センターディレクター

研修担当理事:入戸野 匡彦

9月18日(金)、ワシントン DC 日本商工会はジョージタウン大学の松尾真一郎博士をお招きし、ウェビナー「ブロックチェーンと今後の応用」を開催しました。当日は約50名の方にご参加いただき、松尾先生によるご講演の後には、熱心な質疑応答が繰り広げられました。

松尾博士は、ジョージタウン大学の CyberSMART 研究センターのディレクター及び研究教授を務められているほか、日本国内では慶応大学、東京大学等で暗号と情報セキュリティの研究を進められています。2019年からはシリコンバレーに開設された NTT の研究所のブロックチェーン研究グループのリーダーも務められています。

ブロックチェーンとは2008年に仮想通貨(ビットコイン)の公開取引台帳としての役割を果たすために発明され、インターネット上の複数のコンピューターで取引の記録を互いに共有し、検証し合いながら正しい記録を鎖(チェーン)のようにつないで蓄積する仕組みです。政府や中央サーバーを介さずに記録を共有し、検証し合うので、記録改ざんや不正取引を防ぐことができるため、今後の有力な決済手段として、また契約と執行を自動化するスマートコントラクトを実現する技術としても期待されています。本研修会では、ジョージタウン大学の CyberSMART 研究センターのディレクター及びシリコンバレーに開設された NTT の研究所のブロックチェーン研究グループのリーダーを務められている松尾真一郎博士にお越しいただき、ブロックチェーンの仕組み、思想的な背景、本質的な価値、今後の応用、グローバルな動向について講演していただきました。

冒頭で松尾博士から、「ブロックチェーンを研究するためには技術だけではなく、金融、法律、ビジネスについても理解している必要がある」とのコメントがあり、実際に講演の中では、インターネットの黎明期の話から、思想的背景、国際経済まで縦横無尽に幅広いお話しをしていただき、参加者の知的好奇心を大いに刺激していただく内容となりました。講演に引き続き行われた質疑応答では、米中の緊張関係がブロックチェーンの展開にもたらす影響、仮想通貨以外での利用可能性、グローバル展開の課題等の質問が寄せられ、特に金融セクター以外でのブロックチェーン活用に関する白熱した議論となりました。

今回の研修会では商工会の契約するビデオ会議システムを用いて初めてバーチャルに開催しました。事前の綿密なりハーサルにより、当日は大きなトラブルもなく円滑にウェビナーを開催することができました。今後は講演者/出席者の物理的な所在地を問わないウェビナーの利点を活かし、更に会員の皆様にお役に立てるような研修を企画・運営していく所存です。